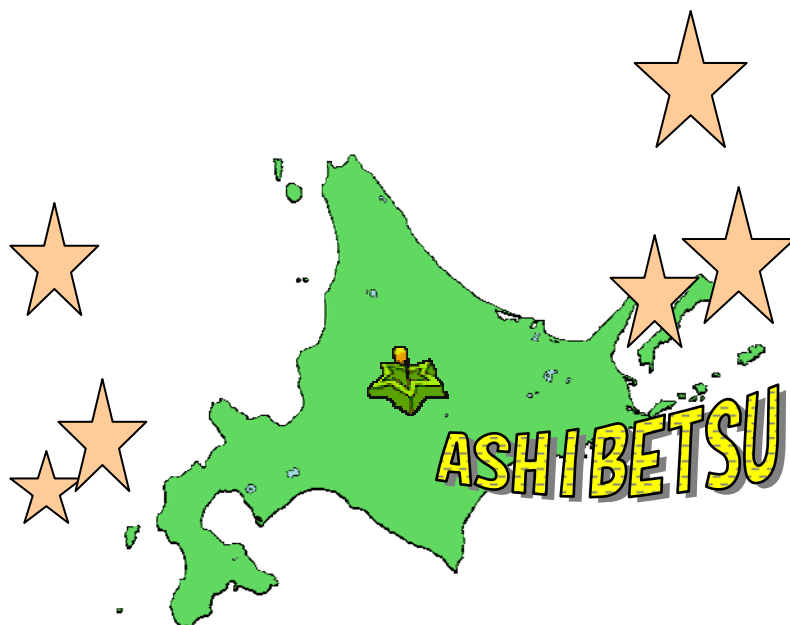


# 芦別市食育推進計画

～食で育む「健やかな心とからだ」あしべつ食育プラン～

## 中間評価



芦別市

# 第1章 「芦別市食育推進計画」 概要

## 1 食育推進計画策定の背景

「食育」とは、「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることとされています。

国では、国民が健全な心身を培い豊かな人間性を育む食育を推進するため、施策を総合的かつ計画的に推進することを目的に、平成17年6月に食育基本法を制定しました。

本市においても市民一人ひとりが、健康で豊かな生活を送るうえでの原点が日常の食生活であることを再認識し、食への感謝の気持ちを深めていかなければなりません。そして、食に関する知識と食を選択する力を習得して、自ら健全な食生活や食習慣を実践していく必要があります。また、本市においても伝統的な食文化を守り、次の時代へ継承していくことも大切なことです。

そのため、家庭、保育所、幼稚園、学校、地域、生産者、事業者、行政などが相互に協力・補完し合い、市民の豊かな人間性を育むことを目指して、本市にふさわしい食育推進計画を平成20年3月に策定しています。

## 2 計画の位置づけ

本市の食育推進計画は、食育基本法第18条第1項に基づく市町村食育推進計画として位置付けられています。

この計画は、一人ひとりの健全な食生活の実践を通して豊かな人間関係を育むことを目的とする食育を推進するための基本的な考え方を明示して、食育を具体的に推進するための総合的な指針として策定しました。

## 3 計画の期間

食育推進計画の期間は平成20年度から平成24年度までの5年間です。

## 第2章 中間評価にあたって

### 1 中間評価の目的

食育を推進するため平成20年3月に策定された「芦別市食育推進計画」に基づき、「芦別市食育推進実施計画」を作成し、家庭・保育所・幼稚園・学校・地域・生産者・事業者・行政などがお互いに協力・補完し合いながら取組みを行い2年が経過しました。

より充実した食育の推進を図るためには、平成24年度の最終評価に向け取組みの成果や達成度を客観的な指標により把握し、その結果を今後の取組みに反映させることが必要です。そのため、食生活の実態や意識の現状を把握し、目標の達成度を評価・分析するため中間評価を行いました。

### 2 評価項目

#### 重点目標

- (1)朝ごはんをしっかりと食べましょう
- (2)バランスのとれた食生活で健康づくりをしましょう
- (3)みんなで食卓を囲みましょう
- (4)食育への関心を高めましょう
- (5)芦別市の食文化を育みましょう

### 3 調査対象

- (1)市内保育所2か所・幼稚園1か所に通う乳幼児の保護者
- (2)市内小学校6校に通う小学校5・6年生本人とその保護者
- (3)市内中学校2校に通う中学校2年生本人とその保護者
- (4)市内高校に通う高校2年生本人

### 4 中間評価の方法

「芦別市食育推進計画」に盛り込まれている重点目標に沿った、アンケート用紙の配布及び回収を行い調査を行いました。ご協力いただいた方々に深く感謝いたします。

アンケート用紙配布・回収数内訳			
調査対象	配布数	回収数	回収率(%)
乳幼児の保護者	293	222	76
小学校5年生本人	118	80	68
小学校5年生の保護者	118	79	67
小学校6年生本人	116	85	73
小学校6年生の保護者	116	86	74
中学校2年生本人	137	130	95
中学校2年生の保護者	137	96	70
高校2年生本人	134	124	93
計	1,169	902	77%

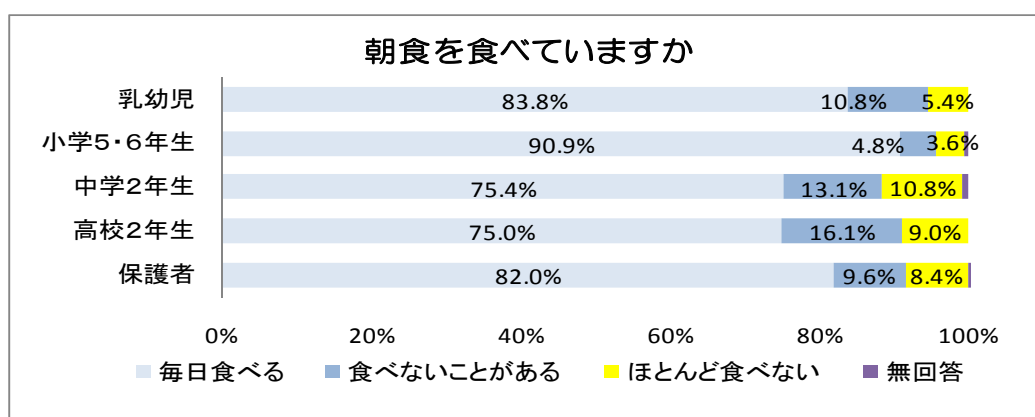
### 5 調査期間 平成21年10月5日(月)～11月13日(金)

### 第3章 中間評価

#### 重点目標 (1) 朝ごはんをしっかりとべましょう

##### 【中間評価】

- 「朝食を毎日食べる」は小学生が高く90.9%、最も低かったのは、高校生で75.0%です。
- 「ほとんど食べない」は、中学生が最も高く10.8%、次いで高校生が9.0%、その他の年代では3.6~8.4%となっています。
- 乳幼児は全国及び平成16年3月実施の芦別市次世代ニーズ調査と比較すると、「毎日食べる」が低く、「ほとんど食べない」は高くなっています。



##### 【平成18年度調査結果との比較】

- 平成18年度と比較すると朝食の欠食率は、小学生、高校生、保護者が減少し目標値に近づいており、中学生は横ばいとなっています。一方、乳幼児は欠食率が高くなっています。

項目		調査結果 平成18年度	中間評価 平成21年度	目標値 平成23年度
朝食の欠食率 の減少	乳幼児	0.9%	5.4%	} 0%に近づける
	小学生	7.5%	3.6%	
	中学生	9.6%	10.8%	
	高校生	14.0%	9.0%	
	小・中保護者	13.3%	8.4%	

##### 【まとめ】

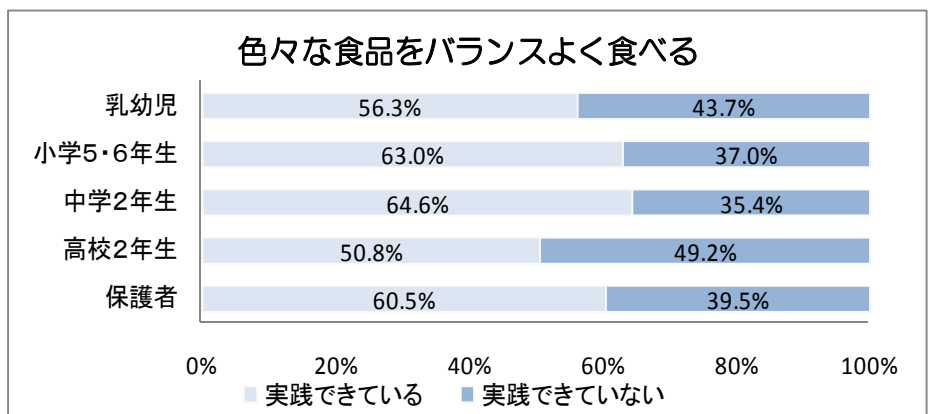
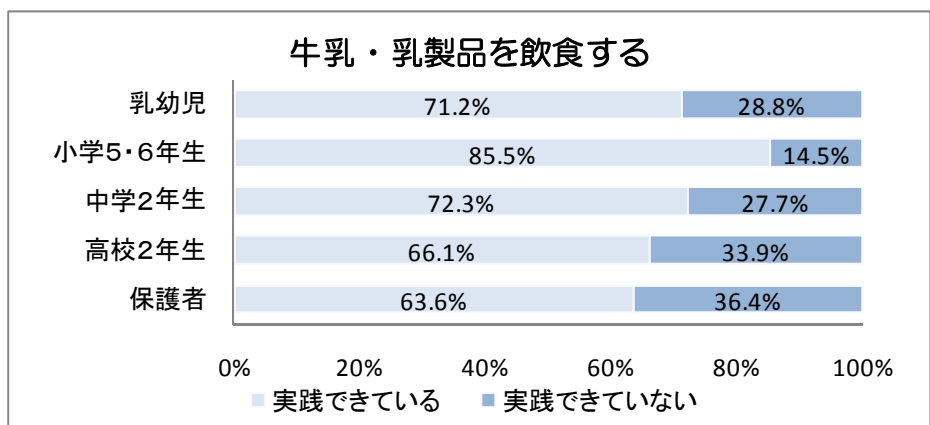
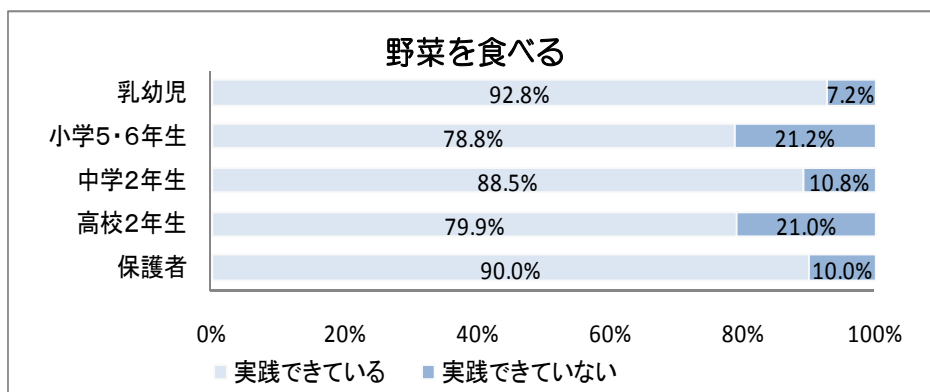
平成18年度と比較し小学生、高校生、保護者は目標値に近づいていますが、乳幼児は朝食の欠食率が高くなっています。朝食は1日の活動をスタートさせる重要な食事です。朝食の欠食は健康面の悪影響だけではなく、1日の活動低下につながることから、早寝・早起きでしっかり食べるリズムを作ることが大切です。

朝食を毎日食べる習慣づくりとなる様々な取組が必要となります。

## 重点目標 (2) バランスのとれた食生活で健康づくりを目指しましょう

### 【中間評価】

- 「野菜を食べる」は、どの年代も70%以上を占め、高い率となっています。
- 「牛乳・乳製品を飲食する」は、63.6～85.5%と年代が上がるにつれ、飲食する機会が減少しています。
- 「色々な食品をバランスよく食べる」は、50.8～64.6%であり、年代による大きな差はほとんどみられませんでした。



## 【平成18年度調査結果との比較】

- 平成18年度と比較すると「野菜を食べる」は全ての年代で11.8～32.8%高くなり、目標値を達成しています。
- 「牛乳・乳製品を飲食する」は小学生、高校生、保護者は目標値を達成しています。また乳幼児と中学生は、乳幼児7.2%、中学生8.3%高くなり目標値に近づいています。
- 「色々な食品をバランスよく食べる」は小学生、中学生、保護者で目標値を達成しています。乳幼児と高校生は、乳幼児が22.3%、高校生が25.8%高くなり目標値に近づいています。
- どの項目においても、平成18年度より目標値に近づいています。

項目		調査結果 平成18年度	中間評価 平成21年度	目標値 平成23年度
野菜を食べる 率の増加	乳幼児	59.6%	92.8%	} 70%以上
	小学生	66.7%	78.8%	
	中学生	66.7%	88.5%	
	高校生	57.3%	79.0%	
	小・中保護者	68.9%	90.0%	
牛乳乳製品を 飲食する率の増 加	乳幼児	63.9%	71.2%	} 80%以上
	小学生	64.4%	85.5%	
	中学生	63.8%	72.3%	} 60%以上
	高校生	40.0%	66.1%	
	小・中保護者	41.8%	63.6%	
色々な食品を バランス良く食 べる率の増加	乳幼児	34.1%	56.3%	} 60%以上
	小学生	51.2%	63.0%	
	中学生	43.6%	64.6%	
	高校生	25.4%	50.8%	
	小・中保護者	46.9%	60.5%	

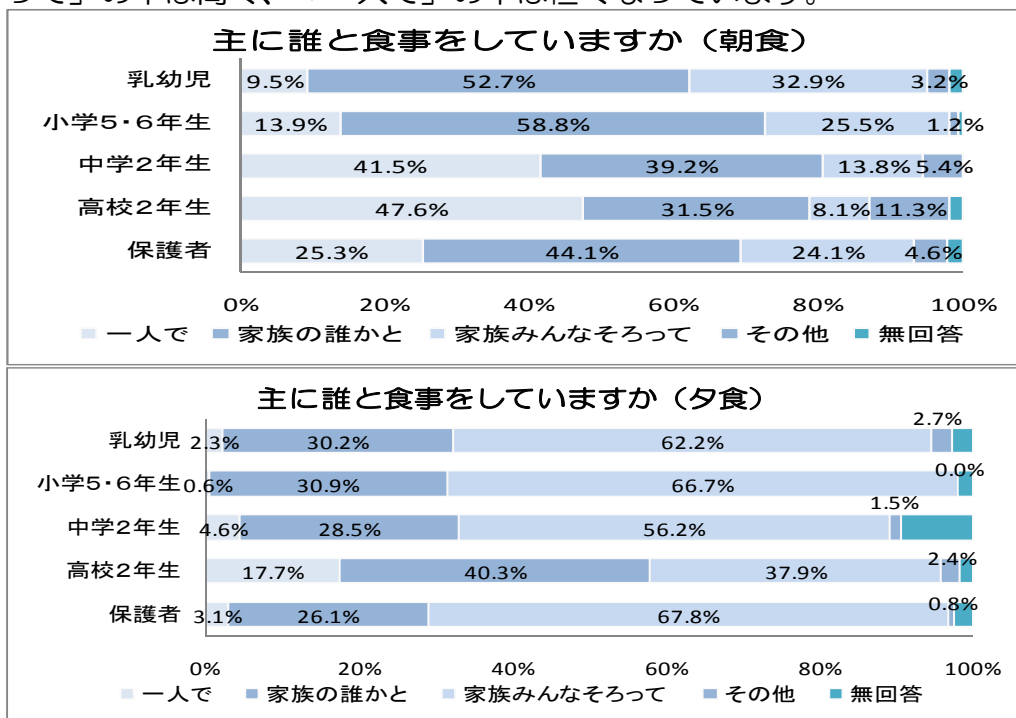
## 【まとめ】

食生活では一人ひとりに適した必要量を知り、1日3食バランスよく食べることが大切です。また、いろいろな食品をバランスよくゆっくり噛んで食べることは、規則正しい食習慣を生み出し、生活習慣病の予防、健康的なからだづくりの基礎となります。そのため、引き続きバランスのとれた食生活の推進を図る必要があります。

## 重点目標 (3) みんなで食卓を囲みましょう

### 【中間評価】

- 朝食を「家族の誰かと」「家族そろって」とっているが、乳幼児では85.6%、小学生84.3%と80%以上を占めています。しかし、中学生では53.0%、高校生39.6%と学年が上がるにつれ孤食率が高くなっています。
- 夕食では、全ての年代において「家族の誰かと」「家族そろって」食事をとっている率が高く、乳幼児、小学生、保護者においては92.4~97.6%とさらに高い率になっています。
- 平成18年度と同様に、小学生、中学生においては国や道よりも「家族の誰かと」「家族みんなそろって」の率は高く、「一人で」の率は低くなっています。



### 【平成18年調査結果との比較】

- 平成18年度と比較し朝食の孤食率は高校生以外高くなっています。一方、夕食の孤食率は乳幼児以外減少しており、目標値に近づいています。

項目		調査結果 平成18年度	中間評価 平成21年度	目標値 平成23年度
朝食の孤食率 の減少	乳幼児	5.0%	9.5%	} 0%に近づける
	小学生	10.6%	13.9%	
	中学生	32.2%	41.5%	} 20%以下
	小・中保護者	23.0%	25.3%	
	高校生	50.0%	47.6%	→ 30%以下
夕食の孤食率 の減少	乳幼児	0%	2.3%	} 0%に近づける
	小学生	2.4%	0.6%	
	中学生	7.0%	4.6%	
	小・中保護者	3.5%	3.1%	
	高校生	18.3%	17.7%	

### 【まとめ】

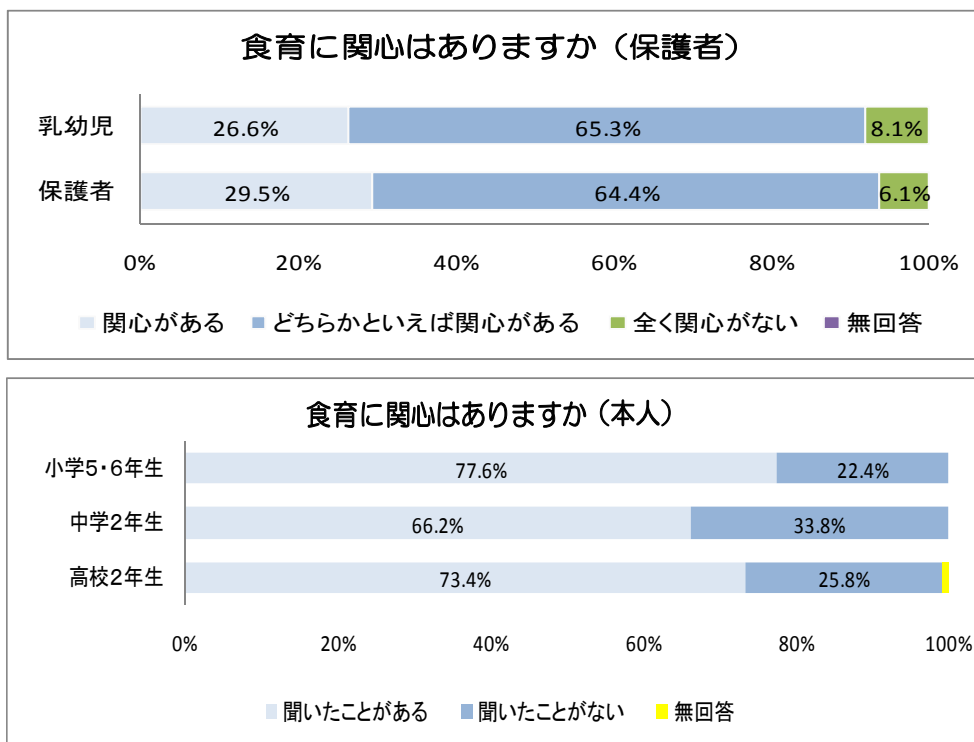
家族や親しい人と一緒に食事をすることは、心身の健康につながると共に、偏食や欠食の予防、さらにマナーや人への思いやりなどコミュニケーションの基本を身に付けます。そのため、引き続き子どもが孤食せず、楽しく家族の誰かと食卓の機会がもてるよう推進を図る必要があります。

## 重点目標 (4) 食育への関心を高めましょう

### 【中間評価】

#### ① 食育への関心について

- 「関心がある」は乳幼児が26.6%、保護者が29.5%であり「どちらかといえば関心がある」は乳幼児65.3%、保護者が64.4%となっています。
- 小学生、中学生、高校生の「聞いたことがある」は66.2～77.6%、「聞いたことがない」は22.4～33.8%となっています。



### 【平成18年度調査結果との比較】

- 食育に関心を持っている人の割合は、高校生、保護者は高く目標値に近づいており、乳幼児、小学生、中学生は横ばいとなっています。

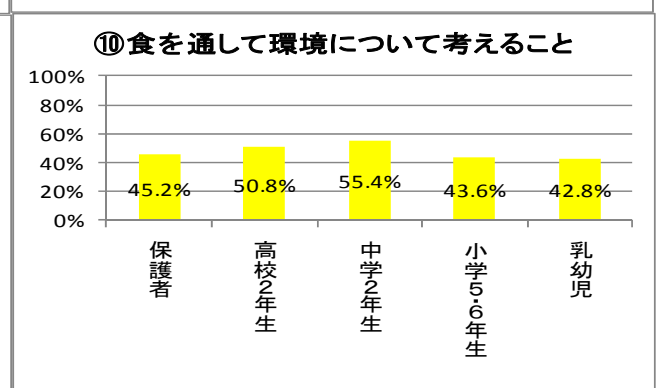
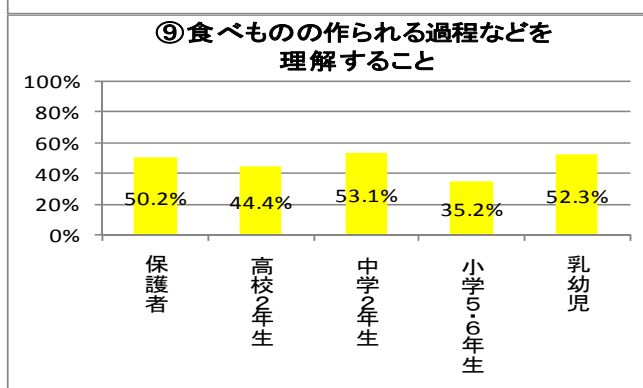
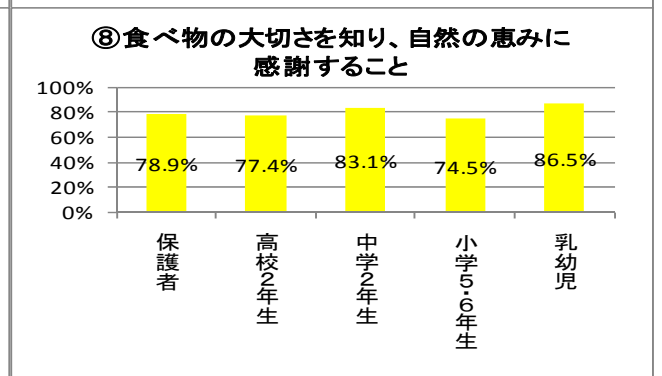
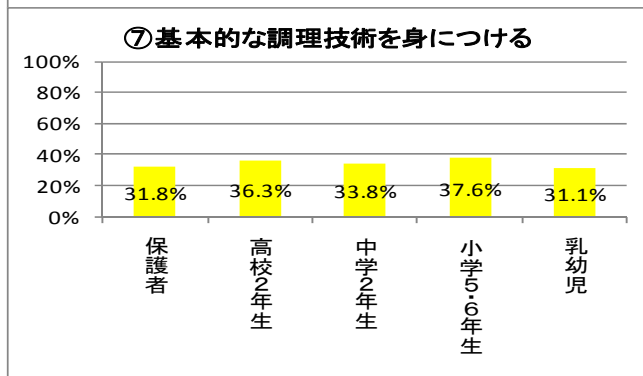
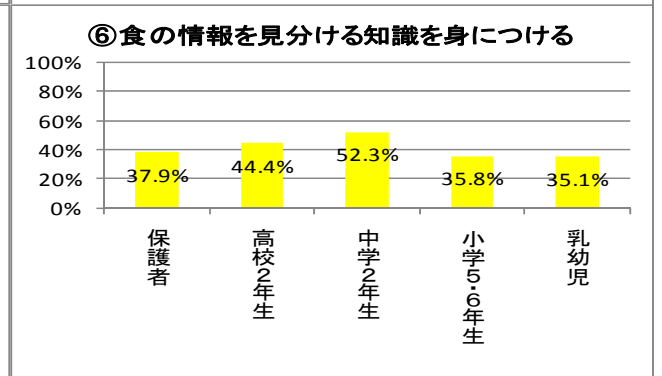
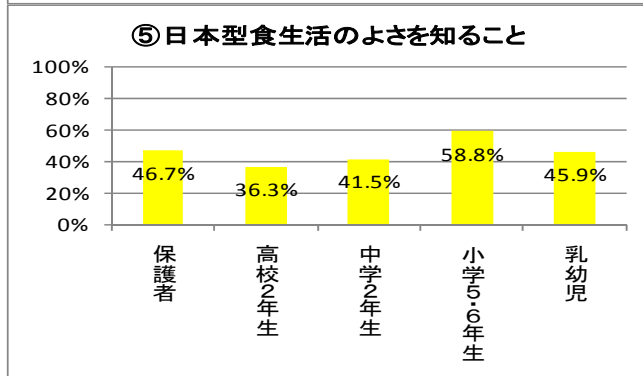
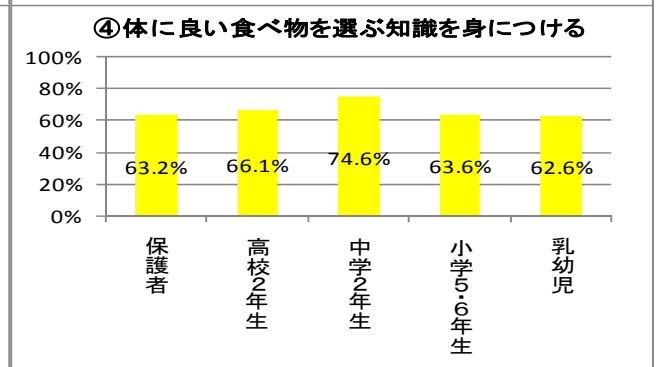
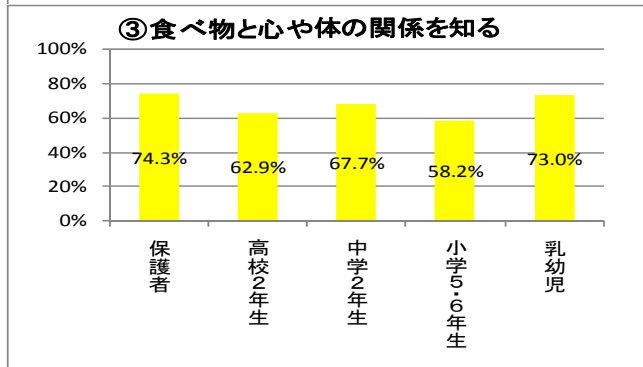
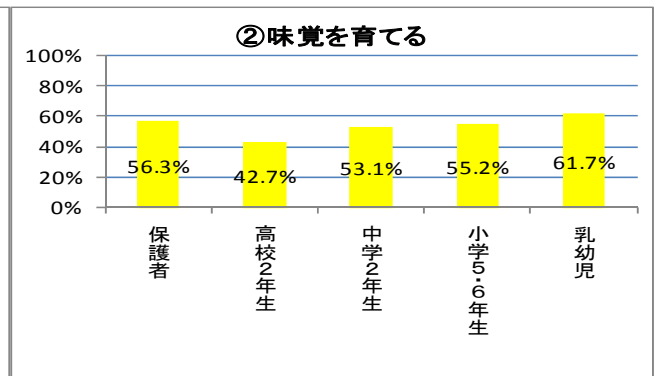
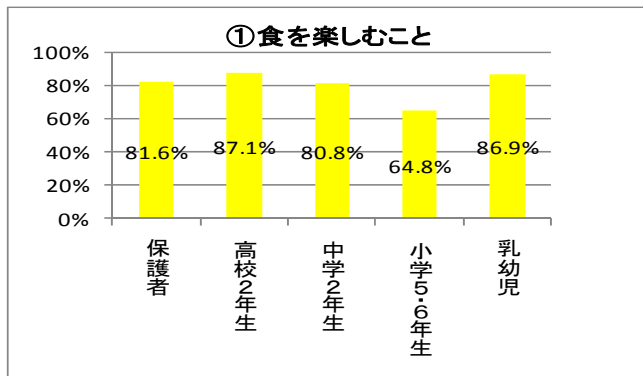
項目		調査結果 平成18年度	中間評価 平成21年度	目標値 平成23年度
食育に関心を持っている人の割合の増加	乳幼児	90.1%	91.9%	} 95%以上
	小学生	75.9%	77.6%	
	中学生	65.2%	66.2%	
	高校生	64.0%	73.4%	
	小・中保護者	89.5%	93.9%	

#### ② 食育で学ぶ10の柱～どれが食育に関連するものか～について

### 【中間評価】

- 食育10項目ごとの全体の平均では、「①食を楽しむこと」が80.2%と最も高く、次に「⑧食べ物の大切さを知り、自然の恵みに感謝すること」が80.1%「③食べ物と心や体の関係を知ること」「④体によい食べ物を選ぶ知識を身につけること」が66.0%以上となっています。





## 【平成18年度調査結果との比較】

- 食育10項目ごとの平均では、「①食を楽しむこと」、「⑧食べものへの大切さを知り、自然の恵みに感謝すること」は平成18年度と同様に、最も高い項目となっています。
- 項目②、⑤、⑥、⑦、⑨、⑩は、50%以下になっていますが、平成18年度よりいずれの項目も全体に高くなっています。

		調査結果 平成18年度	中間評価 平成21年度
①食を楽しむこと	乳幼児	80.6%	86.9%
	小学生	71.7%	64.8%
	中学生	82.6%	80.8%
	高校生	73.1%	87.1%
	小・中保護者	67.8%	81.6%
②味覚を育てる	乳幼児	56.8%	61.7%
	小学生	36.6%	55.2%
	中学生	25.2%	53.1%
	高校生	45.7%	42.7%
	小・中保護者	44.2%	56.3%
③食べ物と心や体の関係を知る	乳幼児	71.6%	73.0%
	小学生	58.7%	58.2%
	中学生	62.6%	67.7%
	高校生	58.5%	62.9%
	小・中保護者	74.0%	74.3%
④体によい食べものを選ぶ知識を身につけること	乳幼児	56.8%	62.6%
	小学生	69.3%	63.6%
	中学生	79.1%	74.6%
	高校生	70.7%	66.1%
	小・中保護者	66.2%	63.2%
⑤日本型食生活のよさを 知ること	乳幼児	36.0%	45.9%
	小学生	40.6%	58.8%
	中学生	43.5%	41.5%
	高校生	37.2%	36.3%
	小・中保護者	39.3%	46.7%
⑥食の情報を見分ける 知識を身につけること	乳幼児	30.6%	35.1%
	小学生	43.3%	35.8%
	中学生	47.8%	52.3%
	高校生	52.4%	44.4%
	小・中保護者	30.9%	37.9%
⑦基本的な調理技術を 身につけること	乳幼児	22.5%	31.1%
	小学生	23.6%	37.6%
	中学生	23.5%	33.8%
	高校生	36.0%	36.3%
	小・中保護者	21.1%	31.8%
⑧食べものへの大切さを 知り、自然の恵みに感謝 すること	乳幼児	74.8%	86.5%
	小学生	75.2%	74.5%
	中学生	78.3%	83.1%
	高校生	56.1%	77.4%
	小・中保護者	70.7%	78.9%
⑨食べものの作られる 過程などを理解するこ と	乳幼児	40.1%	52.3%
	小学生	28.0%	35.2%
	中学生	13.0%	53.1%
	高校生	40.9%	44.4%
	小・中保護者	34.1%	50.2%
⑩食を通して環境につ いて考えること	乳幼児	39.6%	42.8%
	小学生	48.4%	43.6%
	中学生	47.0%	55.4%
	高校生	41.5%	50.8%
	小・中保護者	39.3%	45.2%

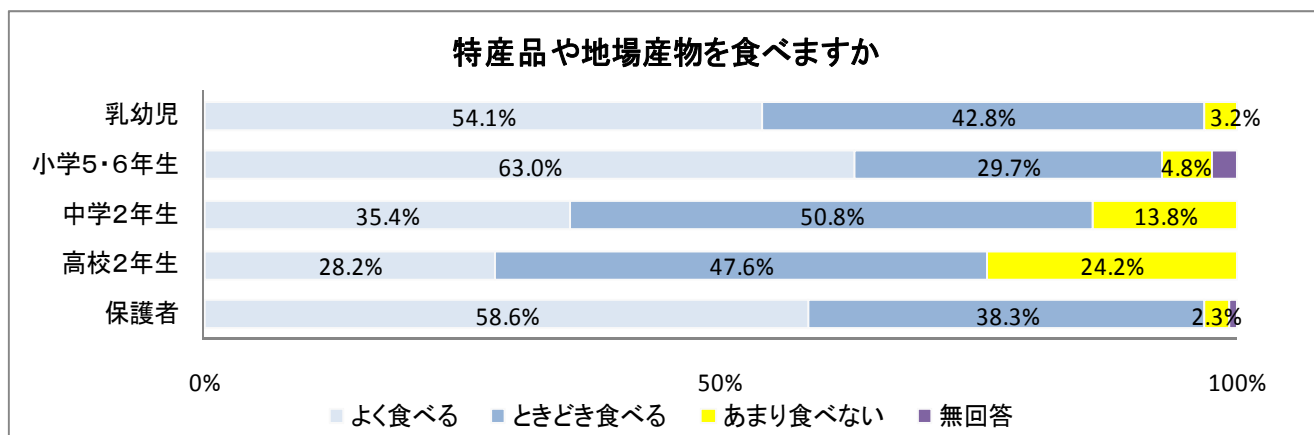
## 【まとめ】

今後も地域全体で食育への関心を高めるため学校での食育に関する取り組みや、地域の食育事業の実施により、食育の知識の普及や食育を推進していくことが必要です。

## 重点目標 (5) 芦別市の食文化を育みましょう

### 【中間評価】

- 「特産品や地場産品をよく食べる」は小学生が高く63.0%、最も低かったのは高校生で28.2%です。「ときどき食べる」は中学生が高く50.8%、次いで高校生が47.6%、その他の年代では29.7~42.8%となっています。



### 【平成18年度調査結果との比較】

- 平成18年度と比較すると、特産品や地場産品を食べる率は21.0~32.1%高くなっています。
- どの年代も目標の70%を達成しています。

項目		調査結果 平成18年度	中間評価 平成21年度	目標値 平成23年度
特産品や地場 産品を食べる率 の増加	乳幼児	66.5%	96.9%	} 70%以上
	小学生	67.4%	92.7%	
	中学生	65.2%	86.2%	
	高校生	48.2%	75.8%	
	小・中保護者	64.8%	96.9%	

### 【まとめ】

郷土料理や特産品などに関心を持ち、生産から流通までの知識を学び特徴的な地元の食文化に触れることが大切です。また、地域でとれる地場産品を知り、旬の味覚を味わう機会をもつことで、引き続き、地産地消を推進していくことが大切です。